

E V E N T R E P O R T

学生報告 物理科学研究科学生セミナー

物理科学研究科構造分子科学専攻 5年一貫制博士課程2年 江口 敬太郎

平成22年3月6日から二日間にわたり第一回総合研究大学院大学物理科学研究科学生セミナーが愛知県豊橋市のホテルにて開催されました。構造・機能分子科学専攻からは学生6名、教員と事務員4名が参加し、5専攻合わせて学生36名、教員と事務員25名が

参加しました。この学生セミナーは物理科学研究科5専攻間の交流の促進を主な目的としており、各専攻から数名の学生が実行委員として企画・運営を行いました。

物理科学研究科としてのセミナーは今回が初めてであるため、初日には各専攻の専攻紹介・ポスター発表が行われました。また、平成22年度から新たなコース別教育プログラムが始動するため、教育プログラムについての説明と相良先生（核融合科学）、田村先生（宇宙科学）による講演

も合わせて行われました。この教育プログラムの存在意義については、学生と教員の間で白熱した議論へと発展しましたが、最終的には未解決問題として残ることとなりました。

このセミナーに運よく実行委員として企画・運営に携わり、他専攻の学生や教員の方と交流を深めることができたことは私にとって非常に良い経験となりました。



Keitaro Eguchi

熊本大学理学部理学科を卒業後、平成21年に総合研究大学院大学物理科学研究科構造分子科学専攻5年一貫制博士課程に入学。分子科学研究所物質分子科学研究領域電子構造研究部門横山グループにて、磁気光学効果を利用した磁性薄膜の研究に取り組んでいます。



学生報告 平成22年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程2年 片岡 圭太

本年度は4月8日、9日の二日間に渡り葉山で総研大学生セミナーが開催されました。本セミナーは昨年度の新入生の有志によって企画、運営されており、この為に1年間欠けた準備をして当日を迎えました。

今回のセミナーは『Re:』というテーマの元【Relationship～他分野との交流～】、【Realization～我を知る～】、【Researcher～研究者として重要なこと～】の3つのセクションに分かれ行われました。

この場でそれぞれの詳細を説明するのはスペースの問題もあり割愛させていただきますが、どのセクションもと

ても興味深い内容に仕上がっており、1年間苦労して作り上げた甲斐がありましたし、新入生も楽しんで参加してもらえたと思います。

昨年とは違い、運営側で学生セミナー参加すると始めの計画から本番までの道のりは容易いものではなく、色々な苦労があったようやく迎り着くものなので、新入生として参加した前回とは全く異なるモノが得られたと思います。

また、学生セミナーは新入生として、運営側としての2回参加して完結するものと言われている事も納得できました。

最後に、新入生には今回のセミナーで得られたものをこれから始まる研究生活に役立ててもらえたらと思います。そして、今回一緒にセミナーを作り上げた委員の皆とはよい思い出を作れたと思いますし、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

Keita Kataoka

日本大学理工学部物質応用化学科を卒業後、平成21年に総研大物理科学研究科機能分子科学専攻へ入学。分子スケールナノサイエンスセンター櫻井グループにて、バッキーボール合成を足掛かりとしたフラレーンの化学的全合成の研究に取り組んでいます。



E V E N T R E P O R T

学生報告 平成22年度前期学生セミナー

物理科学研究科機能分子科学専攻 5年一貫制博士課程3年 井本 翔

平成22年4月8日から二日間、総合研究大学院大学の入学式と学生セミナーが葉山キャンパスで開催されました。私自身はこの4月に総合研究大学院大学に入学しましたが、それ以前より特別共同利用研究員として分子研にお世話になっており、分子研の環境にはだいぶ慣れていました。しかし、分子研の学生の少なさはなかなか慣れられず、学生セミナーをきっかけにして学生間の交流が出来たらいいなと思っていました。

学生セミナーには総研大の様々な基盤機関から70名以上の学生が集まり、活発な交流がなされました。学生セミナーの企画は非常に良く練られており、出身や学問分野が異なる初対面の学生間でもすぐに打ち解けられました。特に分子研にいるとなかなか話題にならない文系学問の研究動機などを知る事ができ、総研大の多様性を改めて感じると同時に同世代からの良い刺激を受けました。この学生セミナーは前年度入学の学生が全て企画・運営す

るそうです。来年度の新入生も同様に素晴らしい体験を出来るように、今後は学生セミナー実行委員として責務を果たしていきたいと思います。

Sho Imoto

名古屋大学理学部化学科修士課程修了後、平成22年度に総合研究大学院大学・物理科学研究科に博士課程3年次編入。理論・計算分子科学計算領域・齊藤グループにて凝縮系における分子、特に水のダイナミクスの解析および解析手法の開発を行っています。



教員報告 分子研シンポジウム2010

2010年度担当教員 光分子科学研究領域 准教授 見附 孝一郎

分子研シンポジウムが平成22年6月4日(金)午後から5日(土)午前にかけて岡崎コンファレンスセンター中会議室で開催されました。このシンポジウムは土曜日のオープンキャンパスに連動する企画として、平成19年から始まり今年が4回目になります。昨年度と同様、分子研に縁のある先生方を講演者としてお招きし、最新の研究成果に加えて、外部研究者の目を通して見た現在の分子研の印象と将来展望をお話いただきました。参加登録者は所外43名で、所内参加者を含めると70名以上の聴衆が集まりました。所外参加者の多くは学部または博士前期課程の学生で、その他、博士後期課程の学生や企業職員も複数参加しました。なお、事前登録者の総数は所外46名でしたが前日までに3名がキャ

ンセルしました。本シンポジウムのプログラムは以下の通りです。

- 谷村吉隆 (京都大学) 「非線形応答で見る凝縮相中分子の量子ダイナミクス」
- 渡邊一也 (京都大学) 「固体表面上での超高速過程」
- 山下正廣 (東北大学) 「高次機能性単分子量子磁石と単一次元鎖量子磁石の展望」
- 加藤立久 (京都大学) 「包まれたことを知るスピン」
- 水谷泰久 (大阪大学) 「タンパク質の超高速過程を追う」

すべての講演時間を50分と設定し、講師の方々に研究の背景や動機を丁寧に説明頂きました。遠慮のためか所

外参加者からの質問は少なめでしたが、金曜日夜の懇親会やオープンキャンパスまでの休憩時間内に個別に尋ねたところ、大学院生はもちろん学部学生ですら講演内容をかなり理解でき有意義な時間を過ごせたとの回答が多数ありました。また、5人の講師全員が、講演会や懇親会の席でご本人と分子研の思い出や交わりを紹介してくださいました。その上、分子研への愛着の念からか、ここで学び研究することの魅力について情熱的に語ってくださった先生方もおられました。今回は昨年度にも増して大変活気のある講演会と懇親会になりました。ひとえに周到な講義準備をされた先生方のご厚情の賜物と、改めて深く感謝を申し上げます。

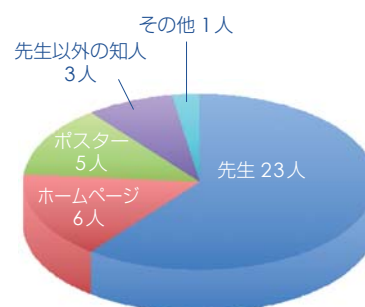
E V E N T R E P O R T

教員報告 分子研オープンキャンパス2010

2010 年度担当教員 物質分子科学研究領域 准教授 中村敏和

2010年6月5日(土)に分子研オープンキャンパスを分子科学研究所において開催した。オープンキャンパスの参加者構成は、沖縄から宮城まで、学部学生10名、修士課程30名、博士課程3名、助教1名、民間2名であり(このほか分子研シンポのみの参加者が6名)、あわせて合計52名で昨年度より増加した。当日は13:15より岡崎コンフェレンスセンター中会議室で、大塚所長、横山教授、青野教授、著者の順番で分子研、総研大、共同利用、およびオープンキャンパスの説明を行い、明大寺・山手の両地区を14:00から17:00まで実験室を自由に見学してもらった。天気には恵まれすぎて暑い一日であったが、見学には支障が無く幸いであった。アンケートの回収率は昨年より若干高い63%であ

る。参加情報の入手先は先生からの紹介60%、ポスター15%、ホームページ13%となっているが、ポスターを見た人の多くは先生からの紹介と重複している。しかし、ポスターがあったからこそ教員からの紹介があるので、ポスターの重要性は依然として高いと思われる。実際、ポスターを見たことがある人は73%と昨年度に比べて激増し、見ていない人の方が少数派になった。以上の結果は、本事業が広報室の弛まない努力と大学におけるOB等の分子研に縁のある先生方に支えられた形で成立していることを表していると思われる。最後に今回のオープンキャンパスの開催にあたりご協力頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

オープンキャンパス・シンポジウム
情報入手先

総研大の知名度

